

【山崎主宰の俳句】

運河まで

山崎 聰

忘恩の一日寒く鯉の口

光ることもなく美しき寒卵

夢にきし彼そして彼晩臼柚

あかあかと冬野を帰りしに逝けり

白馬白兔大寒気団来たるかな

自画像のそのとき真顔雪景色

硬直し転倒し初夢のなか

命終のそのときまでを雪中花

わらわらとこの世の焰どんど焼

探梅のつもりはなくて運河まで